

案内

認知症の人と家族への 援助をすすめる 第29回全国研究集会

日時：10月13日(日)9:30～16:00

会場：米子コンベンションセンター(ビッグシップ)多目的ホール・情報プラザ(鳥取県米子市)

テーマ：認知症の医療、介護、地域の連携を考えるー本人も家族も安心して暮らせるために

プログラム：講演「認知症とともに生きる時代を迎えてー認知症の行動科学」佐藤眞一(大阪大学大学院人間科学研究科教授)／事例発表「若年認知症への理解と支援を」(鳥取県)、「認知症カフェ開設と運営について」(富山県)、「地域の取り組みーオレンジドクター」(大分県)ほか／シンポジウム「認知症にやさしい介護保険制度へ」勝又浜子(厚生労働省認知症・虐待防止対策推進室長)ほか
参加費：2000円、学生1000円(資料代含)

申し込み：専用申込用紙による

【鳥取県認知症フェスティバル】

日時：10月12日(土)

会場：米子コンベンションセンター

プログラム：長編動画「毎日がアルツハイマー」鑑賞と語る会／ランチョンセミナー「認知症医療疾患センターの活動について」廣江ゆう(養和会養和病院院長)／認知症の学び「アルツハイマー型認知症の最新情報ー早期診断から治療、予防に向けて」浦上克哉(鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座教授)、「認知症のエンドオブライフケアと家族支援」長江弘子(千葉大学大学院看護学研究科特任教授)、「レヴィ小体病と認知症」中島健二(鳥取大学医学部脳神経内科教授)／認知症ケアの学びと体験「行動療法」竹田伸也、「回想法」速水淑子・仲田美紀、「アロマセラピー」神保太樹、「臨床美術」フルイミエコ・わだゆうか、「音楽療法」濱谷紀子／「認知症にやさしい地域をつくる」

問い合わせ：認知症の人と家族の会

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル京都社会福祉会館 2F

TEL：075-811-8195

FAX：075-811-8188

E-mail：office@alzheimers.or.jp

http://www.alzheimers.or.jp/?page_id=159

案内

第19回日本実存療法学会

日時：10月26日(土)10:00～

会場：千代田区立日比谷図書館文化館大ホール(東京都千代田区)

テーマ：人はなぜフランクルを求めるのか

プログラム：特別講演Ⅰ「医療とヘリコプターー機械と人間の間」長島友有(防衛大学名誉教授)／特別講演Ⅱ「国際医療学(global medicine)の目指すもの」渡邊昌(生命科学振興会理事長)／ワークショップⅠ「交流分析とロゴセラピー」元吉正幸(こころと身体研究所)／ワークショップⅡ「オーラソーマとロゴセラピー」土田くみ(kumi心理カウンセリング研究所)／シンポジウム「ロゴセラピーを日常活動に生かすー学会認定国際実存療法士を目指して」藤森純子(富山大学地域連携推進機構地域医療・保健支援部門)ほか／教育講演(市民公開講座)「フランクル博士の人間観ー臨床の視点より」永田勝太郎(国際全人医療研究所理事長、WHO心身医学・精神薬理学教授)

参加費：会員1万円、非会員1万2000円、学生5000円

※当日受付

問い合わせ：事務局

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-7-901 国際全人医療研究所内

TEL：03-5577-6841

FAX：03-5577-6842

E-mail：tklogos@nifty.com

案内

平成25年度日本赤十字 看護大学フロンティア・ セミナー

日時：10月26日(土)13:00～16:00

会場：日本赤十字看護大学広尾ホール(東京都渋谷区)

テーマ：シームレスな人材育成をデザインするー新人看護師をめぐる大学と病院のパートナーシップ

プログラム：基調講演「大学と企業の

パートナーシップによる人材育成」谷正史(金沢工業大学常任理事、産学連携推進部長)／シンポジウム「新人看護師育成に向けた大学と病院のパートナーシップ」小野和代(東京医科歯科大学医学部付属病院副看護部長)、齋藤やよい(東京医科歯科大学医学部保健衛生学科学教授)、別府千恵(北里大学病院看護部長)、中山栄純(北里大学看護学部基礎看護学准教授)

参加費：1000円

申し込み：氏名、所属先名をメールまたはFAXで10月18日(金)までに

問い合わせ・申し込み先：日本赤十字看護大学看護実践・教育・研究フロンティアセンター

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3

TEL：03-3409-0875

FAX：03-3409-0589

E-mail：frontier-seminar@redcross.ac.jp

案内

訪問看護ターミナルケア 集中講座 訪問看護が支える在宅 ターミナルケア

日時：

〈第Ⅰ期〉11月28日(木)・29日(金)

〈第Ⅱ期〉12月19日(木)・20日(金)

〈第Ⅲ期〉2014年1月23日(木)・24日(金)

会場：

〈第Ⅰ期〉日本財団会議室

〈第Ⅱ・Ⅲ期〉ルーテル市ヶ谷センター

プログラム：

〈第Ⅰ期〉1日目「在宅ホスピス緩和ケアの実践」秋山正子(白十字訪問看護ステーション統括所長)、「自分自身とターミナルケア」高砂裕子(南区医師会訪問看護ステーション管理者)、懇親会(希望者のみ)／2日目「在宅ターミナルケアの考え方と取り巻く法的知識」在宅ターミナルケアのプロセスとケアのポイント」宮田乃有(府中医王訪問看護ステーション地域看護専門看護師)、「在宅ターミナルにおける医師から見た訪問看護のあるべき姿」和田忠志(いちはら診療所在宅医療部長)

〈第Ⅱ期〉1日目「がん治療の現状・動向」

和田忠志、「ターミナル期の疼痛コントロールの理論と実際」[公開コンサルテーション(疼痛コントロール)]高野めぐみ(悠の木訪問看護ステーションがん性疼痛看護認定看護師)／2日目「訪問看護における症状緩和の実際」[公開コンサルテーション(症状緩和)]「臨死期のケア」高沢洋子(淀川キリスト教病院訪問看護ステーション所長)、「専門職が行うエンゼルケア」高橋洋子(おもて参道訪問看護ステーション管理者)

〈第Ⅲ期〉1日目「退院調整・支援についての進め方と実際」三輪恭子(淀川キリスト教病院地域医療連携センター)、「事例検討(退院調整)」高砂裕子、「ターミナルケアに関連した活動について」大下大圓(飛騨千光寺住職)／2日目「在宅ターミナルにおけるチームケアの実際」中島朋子(東久留米白十字訪問看護ステーション所長)、「まとめ」高砂裕子、閉講式

参加費：会員6万円、非会員12万円

申し込み：ホームページより申込書を印刷の上、FAXにて

申し込み・問い合わせ先：全国訪問看護事業協会事務局

TEL：03-3351-5898

FAX：03-3351-5938

<http://www.zenhokan.or.jp/>

案内

聖路加国際病院看護部主催 第10回看護実践講座

日時：2014年2月22日(土)10:00～16:30

会場：聖路加看護大学302教室(東京都中央区)

テーマ：がんサバイバーのQOL維持・向上をめざすサポーターケアについて考えよう

プログラム：

〈第1部〉サポーターケアの理解を深める

「がん医療 The Next Step—がんサバイバーシップ」山内英子(乳腺外科医師)／「がんサバイバーが求めているサポート」橋本久美子(がん相談支援室看護師)／「がんサバイバーへのスピリチュアルケア」保坂隆(精神腫瘍科医師)

〈第2部〉サポーターケアの実例紹介
「サポートグループ(がんと共にゆったり

生きる)」中村めぐみ(がん看護専門看護師)／「がんになっても働き続けるための『就労Ring』」保坂隆／「がんサバイバーにとつての『遺伝』という課題」大川恵(外来看護師)／「自分らしさを保つ『トータルビューティサロン』」金井久子(乳がん看護認定看護師)

〈第3部〉実現可能なサポーターケアを考える—グループ討議

定員：50名(先着順)

参加費：5000円(資料・刷子代含む)

申し込み：①1人1通のハガキ、または封書に①参加者氏名、②勤務先・所属、③連絡先住所・電話・FAX・メールアドレスを明記して下記へ。参加証が届き次第参加費を振り込み(参加者名・受付番号を明記)。当日は参加証を持参

締切：2月1日(土)消印有効

申し込み・問い合わせ先：看護管理室
中村めぐみ(プログラム責任者)

〒104-8560 東京都中央区明石町9-1
聖路加国際病院

FAX：03-3544-0649

E-mail：nurse@luke.or.jp

案内・演題募集

第18回日本在宅ケア 学術集会

日時：2014年3月15日(土)・16日(日)

会場：一橋大学一橋講堂学術総合センター(東京都千代田区)

テーマ：多職種で共に考え、支えるエンド・オブ・ライフケア—その人の最善とは何かを語り合おう

プログラム：

3月15日：公開講座1「エンド・オブ・ライフケアを地域で効果的に進めるための多職種連携のあり方」福井小夜子(日本赤十字看護大学)／2「市民と専門家との対話を促進するエンド・オブ・ライフケアモデルの提案(仮)」増島麻里子(千葉大学)／交流集会A-1「医療と介護の連携推進に向けた政策的動向と各地域の取り組み—在宅医療連携拠点事業を発端として」福井小夜子、後藤友美(厚生労働省医政局指導課在宅医療推進室在宅看護専門官)／A-2「地域で活動する専門看護師・認定看護師の集い」山田雅子(聖路加看護大学)、平原優美(あすか山訪問看護ステーション統括所長)／特別講演「自分

らしく、歌とともに」冴木香奈(タンゴ歌手・女優)／シンポジウムI「在宅ケアと臨床倫理：認知症とエンド・オブ・ライフケア—その人にとっての最善を考える」箕岡真子(箕岡医院医師)、稲葉一人(弁護士)／映画上映「わたしの人生(みち)—我が命のタンゴ」／イブニングセミナー

3月16日：会長講演「看護実践に生かすエンド・オブ・ライフケア(仮)」長江弘子(千葉大学)／教育講演1「地域包括ケアと共生のまちづくり—オランダを手がかりに」堀田聡子(労働政策研究・研修機構)／2「生活の場での協働／専門職性」三井さよ(法政大学)／3「エンド・オブ・ライフケアチームによる意思決定支援の試み(仮)」横江由理子(国立長寿医療センター)／交流集会B-1「訪問看護ステーションにおける継続教育の機能向上」吉本照子(千葉大学)、辻村真由子／B-2「By Myself：その人らしい人生の終え方について語ろう」片山陽子(香川県立保健医療大学)、斎藤信也(岡山大学)／シンポジウムII「その人らしさ」を支えるチームアプローチ」平原左斗司(梶原診療所)、福田裕子(まちのナースステーション八千代所長)、杉田勝(船橋市介護支援専門員協議会副会長)、高橋眞生(㈱カネマタ代表取締役・薬剤師)、松川基寛(船橋市訪問看護ステーション)

【演題募集】

応募締切：9月30日(月)

問い合わせ：事務局

TEL & FAX：043-226-2777／043-226-2782

E-mail：elem@chiba-u.jp

<http://www.procomu.jp/zcare2014/>